

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
中央工学校 O S A K A	昭和61年3月31日	中野 吉晟	〒561-0872 大阪府豊中市寺内一丁目1-43 (電話) 06-6866-0800			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 中央工 学校	昭和39年3月27日	堀口 一秀	〒114-8543 東京都北区王子一丁目26-17 (電話) 03-3906-1211			
目 的	工業分野に従事しようとする者に、企業との連携の上で実務性の高い専門知識及び技術・技能を修得させるとともに志操堅実な技術者を育成する事を目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	工業専門課 程	建築学科 (夜間部)	2年(夜)	1,750単位時間 (又は単位)	平成17年文部科学 省告示第176号	
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	912単位時間 (又は単位)	802単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	36単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	36人	1人	16人	17人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有) 無) ■成績評価の基準・方法について 試験、実習、出席学習態度の総合 的評価	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月1日～8月31日 ■冬 季：12月25日～1月7日 ■春 季：4月1日～4月10日			卒業・進級条件	履修すべき全科目に合格 卒業課題の提出・合格 履修期間の出席率が70%以上 所定の費用を全納している	
生徒指導	■クラス担任制 (有) 無) ■長期欠席者への指導等の対応 補習授業等			課外活動	■課外活動の種類 なし ■サークル活動 (有) 無)	
就職等の状況	■主な就職先、業界等 建設業界 ■就職率 <sup>※1</sup> 75.0% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> 50.0% ■その他 (任意) (平成28年度卒業者に関する平成29年3月時点の 情報)			主な資格・検定	建築士受験資格、建築施工管理技士受 験資格、CAD利用技術者検定、福祉 住環境コーディネーター、色彩検定 他	

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 2名 ■中退率 7.7%</p> <p>平成28年4月1日在学者 26名（平成28年4月入学者を含む） 平成29年3月31日在学者 24名（平成28年10月転科者、平成29年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、病気</p> <p>■中退防止のための取組 担任面談による指導、入学前の進路確認、保護者懇談会</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL: URL: <a href="http://www.chuoko-osaka.ac.jp/">http://www.chuoko-osaka.ac.jp/</a></p>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

専門学校は「職業もしくは実際生活に必要な能力を育成し、又は教育の向上を図る」ことにある。本校は、建築系専門学校として100年余の歴史と伝統のある中央工学校のグループ校で、工業技術教育を行う専門学校として技術者の育成を行っているが、広く社会の要請に応じた組織的な教育を行うためには、企業等との連携は欠かせない。専門課程の教育内容に適した企業との連携により、実践的な職業教育水準の維持向上に努める。特に教科構成や実習・演習の実施、教員研修について、企業等の意見を反映させるように取り組む。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名 前	所 属
小松原 学	富士教育訓練センター校長
猪木 陽子	一般社団法人関西インテリアプランナー協会副会長
堀越 保幸	日鉄住金テックスエンジニアリング株式会社 建設事業部技術部建築設計技術グループ長
山田 恭子	パナホーム株式会社営業設計部営業設計企画室リーダー
内田利恵子	建築設計室Morizo代表
沖 清忠	インカー・ドローイング株式会社マネージャー
田尻 元子	株式会社ジー・プラン設計室室長

### (開催日時)

- 平成27年度 第1回 平成27年 9月30日(水) 18:15~18:50
- 第2回 平成28年 2月12日(金) 14:55~17:30
- 平成28年度 第1回 平成28年 9月30日(金) 18:30~19:10
- 第2回 平成29年 2月10日(金) 15:00~17:30

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

実習・演習等は専門学校教育の根幹をなす重要なものである。よって、常に最新の技術を指導する必要がある。そのために学校と企業等が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育となるように努める。

連携を行う企業とは、雇用契約書を取り交わし、契約の趣旨に則り実践的な職業教育を行うものとする。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
建築設計製図Ⅰ	他科目との関連に留意し、設計技術の総合性に立脚した計画技法を習得させる。	Unit 聚
建築設計製図Ⅱ	他科目との関連に留意し、設計技術の総合性に立脚した計画技法を習得させる。	Unit 聚
建築設計製図Ⅲ	RC造の基本的な計画方法と設計技術を習得させるとともに、製図の技能・計画・設計の考え方、建築の実務的技術内容との関わりについて理解させる。	渡部高広建築研究所
建築CAD演習Ⅱ	現在の建築技術者にとってITスキルは不可欠であるため、その一つとしてCADによる図面作成技術を業界で最も使用されているソフトを用いて習得させる。	一級建築士事務所 prism
建築製図演習	図面を描くスピードの向上を図るとともに、二級建築士製図試験の過去課題をもとに、製図能力・計画能力を養う。	小林建築設計事務所

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

本校の教育職にあるものは、各自が担当する授業の分野に応じ、企業等と連携の上で高度化、多様化する理論及び新技術等について研修に努めなければならない。

校長に承認を得た者は企業等と連携の上で、校外研修(長期研修・短期研修)及び特別研修を行うことができる。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名 前	所 属
小松原 学	富士教育訓練センター校長
猪木 陽子	一般社団法人関西インテリアプランナー協会副会長
堀越 保幸	日鉄住金テックスエンジニア株式会社 建設事業部技術部建築設計技術グループ長
山田 恭子	パナホーム株式会社営業設計部営業設計企画室リーダー
内田利恵子	建築設計室Morizoー代表
沖 清忠	インカー・ドローイング株式会社マネージャー
田尻 元子	株式会社ジー・プラン設計室室長

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

URL: [www.chuoko-osaka.ac.jp](http://www.chuoko-osaka.ac.jp)

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

ホームページ・教職員会議にて平成28年度教育基本方針を配布

授業科目等の概要

(工業専門課程 建築学科(夜間部)) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次 学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			建築計画Ⅰ	日常生活と建築との関わりについて考えさせるとともに、建築計画を進めるための基本事項を理解させ、過去の作品例を分析しつつ、未来に対応できる建築家としての能力を養う。	1 前	36		○		
○			建築計画Ⅱ	日常生活と建築との関わりについて考えさせるとともに、建築計画を進めるための基本事項を理解させ、過去の作品例を分析しつつ、未来に対応できる建築家としての能力を養う。	1 後	34		○		
○			環境工学	快適な環境をつくりだすために必要な空気、熱、光、音等の環境要素について基礎的知識学習する。	2 前	36		○		
○			建築設備	急速に高度化、多様化、複雑化する建築設備の知識・技術を法規を踏まえて理解させ、建築計画に応用させる能力を養う。	2 後	34		○		
○			建築史	日本建築および西洋建築の発展過程を理解させ、建築技術者に必要な建築的知識を身に付けさせる。	1 前	36		○		
○			建築法規Ⅰ	建築基準法および関係法令を理解させるとともに、演習を通じて運用能力を養う。	2 前	36		○		
○			建築法規Ⅱ	建築基準法および関係法令を理解させるとともに、演習を通じて運用能力を養う。	2 後	34		○		
○			構造力学Ⅰ	静定力学の基本である反力および応力を確実に理解できるようにする。	1 前	36		○		
○			構造力学Ⅱ	静定力学の基本である反力および応力を確実に理解できるようにする。	1 後	34		○		
○			構造力学Ⅲ	構造力学Ⅰ・Ⅱで学んだ静定構造力学の知識を基本に不静定構造物の解き方を理解させる。	2 前	36		○		

○			構造設計	構造力学と構造計画の関連を理解させ、建築計画やデザインにどのように反映されているかを習得させる。	2後	34		○		
○			建築構造Ⅰ	各種構造の概要を理解させ、設計等の実践に対する応用力を養う。	1前	36		○		
○			建築構造Ⅱ	各種構造の概要を理解させ、設計等の実践に対する応用力を養う。	1後	34		○		
○			建築材料	建築物の設計、構造計画、施工のために必要な建築材料の基本的な性質等について理解させるとともに、設計製図、一般構造等の関連性を重視し、より適正な材料の使用方法を習得させる。	1前	36		○		
○			建築施工Ⅰ	建築の基礎的な施工方法、および工事現場の業務・態度・習慣を習得させるとともに、施工の重要性について認識させる。	1前	36		○		
○			建築施工Ⅱ	建築の基礎的な施工方法、および工事現場の業務・態度・習慣を習得させるとともに、施工の重要性について認識させる。	1後	34		○		
○			建築積算	建築における建築積算の重要性を認識させるとともに、実務に即応できる積算技術と積算価格の構成技術を習得させる。	2後	34		○		
○			住宅計画	実践に役立つ住宅計画の考え方からプランニングまでの過程や、住宅をリフォームする上で必要な設備機器の選択方法について理解させる。	2前	36		○		
	○		建築総論Ⅰ	福祉住環境整備の基本的視点として欠かせない福祉の考え方をはじめ、福祉住環境コーディネーターの心構えと役割、関連専門職との連携のとり方、自立した住生活を支える施策について理解させる。また、東京商工会議所認定の福祉住環境コーディネーター2級検定試験に合格できる能力を身に付けさせる。	1前後	140		○		
	○		建築総論Ⅰ	福祉住環境整備の基本的視点として欠かせない福祉の考え方をはじめ、福祉住環境コーディネーターの心構えと役割、関連専門職との連携のとり方、自立した住生活を支える施策について理解させる。また、東京商工会議所認定の福祉住環境コーディネーター2級検定試験に合格できる能力を身に付けさせる。	2前後	140		○		

○		建築総論Ⅱ	ネットワークを含めたIT関連知識をできるだけ多くの練習問題を課しながら習得させる。また、一般社団法人コンピュータソフトウェア協会のCAD利用技術者試験2級に合格できる能力を身に付けさせる。	1 前後	(140)		○		
○		建築総論Ⅱ	ネットワークを含めたIT関連知識をできるだけ多くの練習問題を課しながら習得させる。また、一般社団法人コンピュータソフトウェア協会のCAD利用技術者試験2級に合格できる能力を身に付けさせる。	2 前後	(140)		○		
○		建築総論Ⅲ	文部科学省認定のA・F・T色彩検定2級検定試験に合格できる能力を身に付けさせる。	1 前後	(140)		○		
○		建築総論Ⅲ	文部科学省認定のA・F・T色彩検定2級検定試験に合格できる能力を身に付けさせる。	2 前後	(140)		○		
○		建築総論Ⅳ	2級建築施工管理技術検定試験を合格をできる能力を身に付けさせる。	1 前後	(140)		○		
○		建築総論Ⅳ	2級建築施工管理技術検定試験を合格をできる能力を身に付けさせる。	2 前後	(140)		○		
○		建築設計製 図Ⅰ	他科目との関連に留意し、設計技術の総合性に立脚した計画技法を習得させる。	1 前	144			○	
○		建築設計製 図Ⅱ	他科目との関連に留意し、設計技術の総合性に立脚した計画技法を習得させる。	1 後	136			○	
○		建築設計製 図Ⅲ	RC造の基本的な計画方法と設計技術を習得させるとともに、製図の技能・計画・設計の考え方、建築の実務的技術内容との関わりについて理解させる。	2 前	144			○	
○		測量実習	建築測量の目的・意義・方法を理解させるとともに、器具の取り扱い方、測量方法、データの整理方法等について習得させる。	2 前	36				○
○		建築CAD 演習Ⅰ	現在の建築技術者にとってITスキルは不可欠であるため、その一つとしてCADによる図面作成技術を業界で最も使用されているソフトを用いて習得させる。	1 後	68			○	

○		建築CAD 演習Ⅱ	現在の建築技術者にとってITスキルは不可欠であるため、その一つとしてCADによる図面作成技術を業界で最も使用されているソフトを用いて習得させる。	2 前	72			○	
○		レンダリ ング・ベ ーシ ック演習	基本的な透視図法を理解させるとともに、鉛筆や色鉛筆を使った着彩による表現方法のほか、建築模型の製作方法を習得させる。	1 後	34			○	
	○	卒業制作 (建築計画 コース)	今までに履修した各科目の関連に留意し、これらを総合して一つの作品制作を通じて体系的にまとめる能力を養う。	2 後	136			○	
	○	卒業制作 (施工管理 コース)	各自の自主設計課題に基づいて、総合仮設図・コンクリート躯体図等を作成させ、設計図面を読解できる能力を養う。	2 後	(136)			○	
	○	建築製図演 習	二級建築士製図試験の過去の課題に基づいて、図面を描くスピードの向上を図るとともに、製図能力・計画能力を養う。	2 後	68			○	
	○	3次元CA D演習	企画、プレゼン、設計、図面作成という建築のプロセスを、Archicadを通して体得させ、建築CGやDTP、Photoレタッチの知識・技術を習得させる。	2 後	(68)			○	
合計				45 科目	1,750 単位時間 (			単位)	